

## 第2回 南丹市総合振興計画審議会 記録

と き：平成29年5月1日 午後1時30分～

ところ：南丹市役所 2号庁舎 3階 301会議室

日 時	平成29年5月1日（月） 13時30分～15時30分
場 所	南丹市役所本庁2号庁舎 3階301会議室
出席者	<b>【委 員】</b> ＜出席＞ 小沢修司会長、中村一夫副会長、小中昭委員、仲村学委員、森爲次委員、川勝儀昭委員、木戸徳吉委員、野中一二三委員、榎原克幸委員、大坪洋子委員、大嶋久美子委員、谷義治委員、本村修委員、野々口二三男委員、村田泰伸委員、板山一則委員、吉田尚容委員、柿迫正紀委員、神田和行委員、廣辻雅之委員、大東貢生委員、保田芽生委員 ＜欠席＞ 平井智彦委員、麻田健治委員、芦田茂委員、樋口敏宏委員 <b>【事務局】</b> 堀江長企画政策部長、池田一行企画政策部部長（地方創生担当）、中川佳則定住・企画戦略課長、塩邊健一定住・企画戦略課課長補佐、松本清臣定住・企画戦略課主査 株式会社Studio-L

### 1 開 会【司会：事務局】

### 2 会長あいさつ

○会長

新年度になり第2回南丹市総合振興計画審議会が開催されることになりました。1月の第1回審議会以降、庁内での評価検証や市民団体等ヒアリングが行われたかと思いません。今回より本格的に次期計画策定に向けた議論をはじめることとなりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### 3 議 題

（1）第2次南丹市総合振興計画策定スケジュールについて

事務局より説明

○会長

日程も含めた今後の策定スケジュールについて、ご質問やご意見はございますか。

説明にもありましたように、8月の第5回審議会には中間案を決めなければならないため、もし必要であれば追加開催することについてはご理解いただきたい。

## (2) 第1次計画の評価について

事務局より説明

○会長

資料2の外部評価をみると、「達成できた」「達成可能」といった評価がされている一方、「評価指標が不適切である」「新たな指標設定が求められる」など、評価指標についての指摘が多くなっていることが特徴的かと考えています。以上を踏まえて、第2次南丹市総合振興計画を策定する際には、評価についての検討も求められるのではないのでしょうか。

なお、資料2の内容は市民ヒアリングにも関わるため、資料3についての説明の後、改めてご意見をうかがうこととします。

## (3) 市民ヒアリング結果と職員研修の報告について

事務局より説明

○会長

株式会社<sup>スタジオ エル</sup>Studio-Lより、ヒアリング内容の詳細について説明をお願いします。

○株式会社Studio-L

本日配布した資料「市民ヒアリングから見る南丹市の地域課題」が市民ヒアリングのより詳しい結果となっています。大きく分けて3つに体系化できると考えています。

1つは「移住・定住」に関するものです。たとえば、仕事の関係で都市部に離れてしまう、使いやすい空き家の倍率が高いため移住希望者は多いが住むところがない、子育てしやすく安心できるまちであるとのアピールが必要といった意見がありました。

次に「コミュニティと協働のまちづくり」に関するものです。たとえば、もっと若者が関わりやすい地域にしたい、社会的弱者にとっても住みやすい地域づくりをしてはどうか、文化よりもスポーツの方が人は集まるので地域の運動会に力を入れてほしい、美山町の振興会制度を市全域に普及させてはどうかといった意見がありました。

最後は「旧町の一体感」に関わるものです。各町の個性が強いことは素晴らしいです

が、南丹市としての一体感を醸成させていくことも必要ではないかといった意見がありました。

その他については、交通機関の充実、農林業や観光などの産業振興の意見がありました。

#### ○会長

美山町の振興会制度について説明をお願いします。

#### ○事務局

振興会とは、旧村単位でのコミュニティ組織になります。旧美山町では、旧村単位で地域コミュニティを活性化するために地域団体が設立され、それが振興会になります。合併後も美山管内では継続しており、日吉地域にも広がりつつあります。

#### ○委員

振興会が立ち上がった背景には、人口減少もあるのですが、当時は自治会、公民館、婦人会などの組織が各地域で同じメンバーによって運営されていました。合併の話も出てきたため、スリム化し、自分たちの地域のことは自分たちで考えようということで、旧村単位で5つの地域団体が設立されることとなりました。

現在では住民票の取得などができるよう、職員を1人配置してもらえるようになっていたため、地域住民にとってはありがたいものになっています。

また、各振興会においても、この審議会のような場を振興会で設け、5年、10年の計画を策定するというものもしてきました。振興会ならば細かい地域課題を把握できるので、各地に広がるとベターではないでしょうか。

#### ○委員

旧美山町時代に、5つの地区にある自治会や公民館を1つにまとめるために、課長級職員ともう1人職員を配置し、出先機関の機能を持たせようということから始まった取り組みです。その際、自治会と公民館をまとめるには、やはり事務局のようなものが必要であるということで、現在では振興会になっています。

#### ○会長

資料2の18ページには「住民自治の地域づくりを進める」をみると、「地域自治組織の構築」が現計画でも挙げられていることがうかがえます。外部評価では達成可能であるが数値目標の設定が必要、市民意識調査では参加率は年々減少傾向にあり特に若い世代では顕著である、総括では若い世代が地域活動に参加しやすくなるような支援が必要であると指摘されています。現計画における「地域自治組織の構築」の状況と今後の

課題としてご理解いただきたいです。

#### (4) 職員研修と市民ワークショップの今後の進め方について

事務局より説明

○会長

今後の進め方についての報告ということで、ご理解いただくようお願いします。

#### (5) 基本構想の方向性について

事務局より説明

○会長

資料5の基本構想たたき案について、たとえば7ページの「1. 南丹市を取り巻く社会潮流」をみると、右上に吹き出しがついています。この吹き出しの内容を中心に、ご議論いただきたいということです。

○委員

「1. 南丹市を取り巻く社会潮流」をみると、どんな田舎にも当てはまる文言になっています。たとえば、旧町ごとの人口分布だけでも特徴が出てくるのではないのでしょうか。南丹市についてのさらなる実態把握に努めて、文言の修正をお願いします。

○会長

併せて23ページ「南丹市の基本課題」をみると、社会潮流のまとめ方と基本課題のまとめ方は対応しているように読み取れます。どこに南丹市らしさを出すかが課題となるわけですが、この点についてご議論いただきたいです。

○副会長

章立ての順番について、いきなり社会潮流という大きな話題を持つてくるのではなく、先に南丹市の地域特性を記載し、次に社会潮流があり、最後に南丹市の基本課題という順番にすればわかりやすくなるのではないのでしょうか。

○会長

最初にするのはどちらでも問題ないと考えています。それを踏まえて、どうすれば南丹市らしさを反映させて次期計画を策定できるかについて、ご議論いただきたいです。

市民団体等ヒアリングにおいて、地域自治組織の問題が強調されていたので、たとえば7ページ「行財政運営について」の前など、基本課題に「地域自治組織について」

といった項目が必要ではないでしょうか。

旧町の個性を活かしながら南丹市の一体性をどのように確保していくのかは、南丹市らしさを出していく上で重要な視点です。

#### ○委員

人口構成や推移について、直近の国勢調査のデータが使用されています。一方、17ページ「(5) まちの魅力」には平成29年3月31日の住民基本台帳のデータが使用されていますが、国勢調査のデータも住民基本台帳のデータで統一させることは可能でしょうか。

#### ○事務局

人口の統計データの基本が国勢調査であるため、基本的に国勢調査の数字を使用しています。ご存知のとおり、国勢調査は5年ごとに実施されるため、実施年以外のデータは住民基本台帳で補っています。総合振興計画は長期の計画であるため、基本的には国勢調査のデータを使用させていただき、国勢調査以外のデータについては、最新データを可能な限り使用させていただきます。

#### ○委員

これは案なのですが、「(5) まちの魅力」の「①個性あふれ魅力的な旧4町」について、合併前の話をするのであれば「旧4町」でよいと思います。しかし、今の南丹市において4町は現存していますので、「各町」といった言葉に変更してはどうでしょうか。

また、写真の使い方について、具体的には申しませんが、各町の写真を使用すべきではないでしょうか。

#### ○会長

微妙な問題であり、合併自体の評価にも関わる内容ですので、注意として使うべき用語だと考えています。第2次南丹市総合振興計画策定にあたって、「旧4町」でよいかどうかについて慎重な議論をしたいと考えています。

#### ○委員

現状では基本課題より社会潮流の内容が多くなっています。南丹市の魅力発信と取り組みにつながるような構成にしていきたいです。

#### ○委員

構成についてですが、やはり日本全体との大きな話から南丹市の地域特性を見ていく方が一般的だと考えています。もちろん、先に南丹市の地域特性を見るのがよいという

ことであればそれでいいと考えていますが、会長はどのようにお考えでしょうか。

#### ○会長

見せ方の問題だと考えています。どちらの順番にせよ、計画を読む人たちに自分たちの課題であると受け止めてもらえるかどうか重要です。

先に地域課題を認識してもらい、その課題が大きな流れの中で起こっているものであるという順番で読んでもらうことは1つのやり方として考えられます。一方、日本全体が抱える課題を見てから南丹市が抱える課題を見るというやり方でも問題ないと考えています。ただし、計画の構成については、もう少し内容が肉付けされた段階で議論する方がよいと考えています。

#### ○委員

「現在の南丹市のすがた」をみると、南丹市の現状がわかりやすく記載されているだけで、決してこれを売り出すとかではなく、その後に南丹市の課題問題というのをきちんと認識した上で、解決する方法が記載されているべきであるという中においては、地域課題からはじまるというのは、市の特色の部分ではないと考えたので発言いたしました。

#### ○会長

第1回審議会で提案させていただきましたが、資料1のとおり、10月から「市民アクションに関する計画書別冊等の検討」とあります。〇〇委員のご意見は、まさに別冊に関わる内容だと考えています。すべての内容を総合振興計画に反映させるのではなく、市民自身のアクションを明示した別冊も踏まえながら、市民ワークショップを踏まえて作成するということですので、計画書別冊等の議論にも関わってくるかと考えています。

#### ○委員

23ページ「(2) 子育て・保健・医療・福祉について」について、高齢化に関してですが、南丹市では福祉施設で人生を終える方が多いので、福祉施設等について記載していただきたいです。

#### ○委員

南丹市の福祉施設は京都府下において人口比で一番多いとのことなので、それを強みとして前面に出してはどうでしょうか。高齢者を最後までどう見守るかは南丹市の取り組みの大きな柱になるのではないのでしょうか。

また、地域自治組織の普及について、基本構想のどこに反映させているのでしょうか。

○会長

地域自治組織についてですが、現時点では計画には記載がないので、検討する必要があると思います。

また、高齢者施設も障がい者施設も含めて、南丹市では福祉施設が多いとのことなので、まちづくりの資源として南丹市の強みとなります。株式会社Studio-Lでも、このような視点を取り入れていただくようお願いします。

○委員

待機児童ゼロはよいのですが、だからといって受け入れ体制が十分に整備されているとは限らないので、さらなる充実が必要ではないでしょうか。

○委員

南丹病院が京都中部総合医療センターに名称変更となりましたので、23ページの修正をお願いします。

○委員

市民ヒアリングの「空き家の発掘・活用」について、大きい家は維持が大変で住みたくても住めないということであれば、たとえば一つの家を複数の若者に活用してもらえるようにしてはどうでしょうか。

○会長

若者に限らず、多世代にルームシェアをしてもらうなど、別の視点から空き家活用を考えても良いのではないのでしょうか。

○委員

社会潮流と基本課題は対応しているということですが、一般の方にとっては対応関係が掴みにくい部分があるのではないのでしょうか。よりわかりやすくなるよう、整理をしてはどうでしょうか。

また、教育について、社会潮流の「(5) 教育環境の変化」では大学等との連携については何も記載されていないですが、基本課題の「(6) 教育について」では大学等との連携に関する内容が記載されています。大学側は中央教育審議会の答申で地域貢献をしなければならないため、そのことを社会潮流に記載してはどうでしょうか。

○会長

市内に大学があり、南丹市としてもそれを踏まえてまちづくりを進めていく上では、大学連携についても社会潮流で触れておくことは必要です。

また、ご指摘のとおり、社会潮流と基本課題について、直接的にリンクしていないところもありますが、全体の構成によって変わる部分でもあるため、構成を踏まえた上でご検討させていただきます。

#### ○委員

たたき案を読む限りでは、文化や美術、芸術といった視点がないように読み取れます。

グループ校に京都伝統工芸大学校があり、陶芸・彫刻などをやっております、海外からの留学生も多いです。私の知っている学生の中に韓国からの留学生がいたのですが、帰国後には雑誌にも載るようになっており、屋号として「ソノベ」を使っているとのことでした。20年務めていく中で、南丹市の文化度は高いと実感しているので、文化の視点からの記載も必要ではないでしょうか。

また、気軽に立ち寄れるような文化施設があってもよいかと考えています。

留学生について、フランスやイタリア、ブータンなどさまざまな国から来ています。国際交流を前面に出してもよいかと考えています。

#### ○会長

南丹市の外国人の状況について、事務局よりご説明いただけますか。

#### ○事務局

平成29年度2月1日現在、南丹市に住民登録されている外国人の方は253人です。

#### ○委員

23ページ「(2) 子育て・保険・医療・福祉について」に、障がい者に対する支援に関する内容を記載していただきたいです。

それと全体を通して、地域での共生という部分をお願いしたいです。

もうひとつは、市民意識や人権意識の向上など、社会教育の部分も併せて記載いただきたいです。

#### ○会長

地域コミュニティにおける、まちづくり拠点をどうするかという話に関わります。これまで地域では、公民館が担ってきたところであるが、今後南丹市では、公共施設や小学校跡地などをどう活用するか、あるいは数多くある福祉施設との関わりなどを含め、障がい者福祉について、社会教育の中でどう位置づけるかという重要な指摘です。

#### ○委員

振興会は大変魅力的な制度ですが、全市に広げるということで記載するのであれば、



園部や八木でも可能かどうかについて、検証いただいたうえでお願いしたいです。よい組織ではあるのですが、全市への波及が10年経っても実現していない現実があります。

また、南丹市の魅力発信をするのであれば、ハード的な施設のことだけでなく、振興会制度のようなソフト的なことについて、アピールしていけば良いと思います。

○会長

美山の振興会制度の南丹市全域への普及を求めるとするのは1団体の意見です。ご指摘のとおり、美山以外の状況を踏まえて現実に即した形で提案しなければ、絵に描いた餅になってしまいます。

## (6) その他

○会長

次回審議会は6月13日9時30分から、国際交流会館での開催を予定しております。また、それまでの間に職員研修がありますが、これは市民ワークショップに向けたファシリテーター養成などの内容であるとのことです。

## 4 閉 会

○副会長

本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。次期南丹市総合振興計画についてさまざまな意見を頂戴しましたが、今後はさらにきめ細かく充実した内容にしていくこととなります。引き続き、さまざまな意見を出していただき、よりよいものにしていくよう、ご協力のほどよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

以上